

公共工事における大型土のうの適切な使用について

大型土のうは、公共工事において幅広く使用されているところですが、工事発注時又は現場施工時における袋材の選定及び使用が、その製品規格（最大充填質量、耐久年数など）に適合していないなど、安全管理上、不適切と思われる事例が見受けられています。

については、製品規格を超えた使用による事故を未然に防止するため、その使用においては以下の点に留意していただき、適切な管理の徹底をお願いします。

1 土のう袋の最大充填質量

(1) 大型土のうの製品規格を考慮し、適正な充填質量を決定すること。

※従来使用している最大充填質量1 t 対応の大型土のうは、土木工事標準積算基準書における標準容量1 m³を適用した場合、充填質量が1.8～2.0 t（砂及び砂礫の場合）となり、袋材の製品規格を超過する。

(2) 標準容量1 m³を適用する場合は、耐候性大型土のう（最大充填質量2 t）等を使用するなど、充填質量を考慮した袋材の選定を行うこと。

※耐候性大型土のうとは、一般財団法人土木研究センターにより発行された「耐候性大型土のう積層工法の設計・施工マニュアル」の性能基準をすべて満たした製品をいう。

2 土のう袋の耐久年数

(1) 大型土のうの設置期間に応じて、耐候性大型土のう（耐久年数1年又は3年）等を選定するなど、耐久年数を考慮した袋材の選定を行うこと。

※袋材の耐久年数を超過して大型土のうを設置した場合、袋の劣化に伴う破損等により、充填材が流出し設置効果が得られなくなるなど、問題が発生する可能性がある。